

1. 活動報告（事務局 記）

—7月4日（土）①エコアップ：ため池の「あおみどろ」取り出しと、湿地帯のタテバチドメグサを徹底的に除去しました

②草刈りカ所：（草原ゾーン、市道土手他一部）の草刈

③勉強会：トチカガミの保護とアサザの間引きについて

（違いの特徴と場所の説明）を北村会員に教授いただきました。

※今年はホタルが遅くまで乱舞していたことから川内の葦刈り、土手側の草刈りは延期しました。

参加者は16名でした。

—7月6日（月）中国電力（株）宇部電力所の柴田課長さん他27名が午前午後を通じて先日刈り取ったビオトープ全般の草の収集とエコアップ（湿地帯のタテバチドメグサ間引き）をして頂きました。暑い中での作業感謝いたします。

—7月18日（土）たんぼの草取りを手押し除草機によって行いました。須賀河内川の葦の刈り取りはビオトープ側2/3と4～5mおきに全刈り取りで行いました。蕎麦田下、下の井出の周りは刈ることができませんでした。

勉強会は4種類のイグサについて北村さんの講義がありました。

暑い中ご苦労様でした。16人参加でした。

その他 毎週土、日に、タテバチドメグサの間引を前田歳朗エコアップリーダーが活動されています。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

◎ 行事

—7月末まで 刈り取った葦の野焼きと残り部分の刈り取りを行います。乾装具合と天候具合を見て車地地域の会員にて行う予定です。

—8月2日（日）維持活動：エコアップ、草刈り

—8月22日（土）（午前）維持活動：エコアップ、草刈り

（午後）里山自然観察隊（川の探検）

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

—7月5日— きょうはおじいちゃんとおばあちゃんとちな むしをみにきました。きれいな虫がたくさんいてとてもたのしかったです。 ※ほか、たくさんの絵が書いてありましたが省略させていただきます。 やまもとちな 6さい

4. 会員の声 (原田 満洲夫 記)

6月30日二俣瀬小学校1・2年生と先生方3名合わせて18名がビオトープの生き物観察で訪れてくれました。まだ合鴨はいませんでした。

小学校低学年生であるため、網を使って魚を獲る、虫を捕る動作は少しあわれさを感じます。すぐにわれわれ戦後の食糧難を生き抜いた人間に置き換えて「あんなことではとても生きていくことが出来ない」などとも思い、でしゃばり過ぎではあるが、網を借りてフナやエビを取って見せる。そのまま知らん顔で子供の動作を見て獲物が取れなかった方が子供のためになるか？ 手とり足とりやってみせて教えた方が、子供のためになるか？ ちょっと考えさせられた。

我々の子供の時を思い出したり、数年前カンボジアのトンレサップ湖で、この二俣瀬小学校1・2年生くらいと同じくらいのこどもたちの魚とり、と云うか生きざまを見たとき、二俣瀬の子供は、いや日本の子供は、いかに幸せか、または子どもに甘やかしすぎか考えさせられることとなった。

5. 会よりの連絡事項 (事務局より)

「合鴨の再導入」

昨年活躍してくれた合鴨は「ドライブインつるや食堂」裏にて預かっていただいていたが、そのうちオス2羽を蓮池に戻すことになりました。再々訪れてくれる子供や小学校の先生から、かねてより強い要望がありました。7月4日と7月18日に活動参加いただいた方々にも了解を得て、蓮池の東屋よりの小さいほうの池に網を張って遊泳しています。

昨年問題とされたN・P分のため池への放出を防ぐため、合鴨の池と蓮田を完全分離し合鴨のほうの水は田んぼに放出してレベルを管理し、田んぼの水はオーバーフローしないようにして問題を少なくします。

ため池ゾーンは、分岐した水をハス田に流入させ、オーバーフロー水と直接溝から投入する分だけとなります。

「お知らせ」

昨年末入会され活動されていた伊藤敏光さんが5月19日に逝去されていました。伊藤さんは、ビオトープにマムシが多いという事で、東屋の東、杉の木にフクロウの巣箱を設置してくださってから入会されていました。フクロウの巣箱が遺品となり、残念でしたが今年は巣作をしなかったのが心残りであったようで、5月13日も調査依頼の電話がありました。この時は入院中だったそうです。7月3日に逝去の情報を得て皆様にお知らせしましたが、ご冥福を祈ります。

6. ピオトープ関連 (ピオトープのトンボたち) (管 哲郎 記)

(14) ハラビロトンボ (トンボ科) *Lyriothemis pachygastra* (Selys)

一般にはなじみのないトンボですが農村部ではどこにでも見られるトンボです。平地から丘陵地にかけての植生豊かな池や湿地、水田、休耕田などにみられ、特にオス (♂) は真っ黒い色をしていて驚かされます。メス (♀) も割とハデな模様があり初めて見たときには心躍ったものです。

ハラビロトンボは羽化した場所からあまり移動せず一生を過ごすようです。若いトンボはオス、メスともに黄色に黒の斑がありオスは尾 (胴) の先が細くなり、メスは細くならず平たくなっているので見分けられます。尚、オスは成長するに従って体色が黒く変化してゆきますので、メスとはっきり区別され見分けられます。

4月中旬より10月下旬にかけてみられ日本全土に生息しますが、北海道には南部地方だけ生息するようです。



羽化まもない若いメス (♀)



若いオス (♂)



成熟したメス (♀)



黒化の始まったオス (♂)



老熟したメス (♀)



成熟したオス (♂)

7. 編集後記

夫婦で参加している小田（妻）です。私たちが周南市へ引越しをして、1年がたちました。やっと、新生活にも慣れ、「ビオトープ活動、頑張るか!」と決意した2人だったのですが、間もなく、私の妊娠が判明しました。ということで、相変わらず主人が2人分頑張ることになりました、どうぞ宜しくお願いします。最近、私は検診に行くと、小さな命が着実に育まれている姿を見て、生命の神秘を感じます。「こんなにすごいことが世の中にあるのか!」と毎回、感動しています。そこで、二俣瀬ビオトープには、沢山のこういった「命のサイクル」があるんだなあとと思うと、不思議な気持ちになります。

先日、NHKの「日本のこれから」という討論番組に出させていただいた時、経済重視派の方に「都会育ちだから、環境問題のことって、本当にピンとこない」と悩みを打ち明けられました。開発や後継者不足で、荒廃していく田畑山林を見て、餌がなくなったタヌキの訪問を受けるような田舎育ちの私は、びっくりしました。ぜひ、皆さんの素晴らしい活動とこの素晴らしい環境を見ていただいたら、「ピン」と来るのではないかしら?と思いました。今後も四季折々のビオトープの命を、生まれてくる子供と見ていきたいな~と思っています。

（ 小田 政江 記 ）

21日の大雨、ビックリしました、昼休み会社（山中）から家（車地）に帰ろうとしたら、2号線は渋滞で無理、乗馬クラブ前の道を、田の小野に抜けようと思しますが、その道が「川」・・・やっと抜けると、田の小野は「海」ホントに怖かったです。どうやって、それだけの水が空を飛んでいるのかなと、自然の怖さを知りました。

（ 若林 正治 記 ）